

しず老施協

No. 56

令和元年11月 発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館内

TEL. 054-653-2311 FAX. 054-653-2312

E-mail: sizuroshi@vesta.ocn.ne.jp

<http://www.shizu-roshikyo.jp/>

巻頭言



第55回関東ブロック老人福祉施設研究総会（静岡大会）を終えて

関東ブロック老人福祉施設研究総会実行委員会副委員長 池田 達哉
(社会福祉法人 吉原福祉会 こもれび施設長)

去る9月26日・27日、アクトシティ浜松をメイン会場に、第55回関東ブロック老人福祉施設研究総会が行われました。当日は関東甲信越静の1都10県4市から1,000名を超える介護福祉施設職員が集い、介護の未来を考える熱い二日間となりました。大会の運営には実行委員会、企画経営委員会、研修委員会、21世紀委員

会の皆様のほか、各会員施設から100名を超す係員を派遣頂き、運営スタッフは総勢180名。県内外の来場者をおもてなしの心で迎えることが出来ました。皆様には参加者として、運営スタッフとして多大なるご協力を頂きましたことに、改めて感謝いたします。ありがとうございました。そしてお疲れさまでした！



特集 第55回関東ブロック老人福祉施設研究総会

全体会報告



関東ブロック老人福祉施設研究総会
実行委員会副委員長 山田 睦美
(社会福祉法人 信義福祉会 あかなすの里施設長)

第55回関東ブロック老人福祉施設研究総会【令和元年9月26日(木)～9月27日(金)】が、お天気にも恵まれ、静岡県浜松市アクトシティ浜松をメイン会場として開催されました。第1日目に実施した全体会の様子を報告いたします。



コンgresセンター1階の受付では、浜松市キャラクターの家康君と、大河ドラマで一躍有名となった直虎ちゃんがお出迎え。

・オープニングアトラクション

開会に先立ち、地元で活躍するK's Jazz Quartet with Yoo Jeongheeのジャズバンドが、お越しいただいた皆様へウェルカムの気持ちを込めて、オ



ープニングアトラクションとして華やかに聴かせてくださいました。馴染みの曲を選曲していただき、また、ジャズの雰囲気合う舞台演出も相まって、アクトシティ大ホールの会場の雰囲気は一気に熱を帯びたように感じます。音楽の街、浜松らしく、皆様をお迎えできました。

・式典

オープニングアトラクションでの華やかな余韻をのこしたまま、式典では、全国老人福祉施設協議会の平石朗会長、関東ブロック老人福祉施設連絡協議会の田邊信行会長、静岡県老人福祉施設協議会の石川三義会長、全国老人福祉施設協議会の園田修光常任理事は、主催者を代表し、さる台風15号で甚大な被害を受けられた千葉県を中心とする皆様へのねぎらいと励ましを含め、挨拶を行いました。感謝状贈呈では、669名の受賞者を代表し、特別養護老人ホーム白扇閣の久保田和宏様に感謝状が手渡されました。引き続き、静岡県川勝平太知事、浜松市鈴木康友市長をはじめとし、静岡県社会福祉協議会神原啓文会長から来賓祝辞を賜りました。



開会のことば 種岡 養一 実行委員長



主催者あいさつ 奥津 匡俊 県老協副会長

・講演

基調報告は、公益社団法人全国老人福祉施設協議会の平石会長が、「融和と再生に向けて」と題し、中央情勢報告と、厳しい介護現場の現状の中における会員の団結が促されました。記念講演は、元読売テレビ報道局解説委員長の辛坊治郎様をお迎えし、「明日を読む～正しい判断は正しい情報から」と題し、冒頭からの引き込まれる話の展開に時間が経つのも忘れ、90分間一同が聞き入りました。辛坊様の講演の最後に、決して自分ひとりの力で生きているのではない、大勢の人の小さな力が積み重なって、それが大きな力となり、一人の命を救うことがある、ということを実体験を持って語っていただきました。今回のテーマ『未来へつなぐ 福祉の心～育てよう につぼんの介護力～』のように、2題とも、私達の想いや願い、あきらめないところ、気持ち、などをどのように方向づけていけばよいのか、その道しるべとなるような、素敵な講演でした。

・次回開催県紹介

千葉県から受け継いだバトンを次は神奈川県へ渡します。関東ブロック神奈川大会の鈴木啓正会長に対し、直虎ちゃんと家康君を従えた、静岡県老人福祉施設協議会の奥津副会長から、記念品の浜松風をエールと共にお渡ししました。

全体会を通して

28日に実施されるラグビーのWカップ静岡大会を前に賑わう浜松市でしたので、そちらに負けじ



次回開催 神奈川県紹介

と、二日間に渡る研究総会の出鼻を賑やかに開催しようと、チーム全体班はスクラムを組みました。

前回静岡大会が実施されたのは、平成20年。当時の写真や記録を見ますと、全体会では、諏訪中央病院名誉院長鎌田實氏の演題「地域で命を支える—『あきらめない』『投げ出さない』—」の記念講演が行われておりました。環境や情勢は日々刻々と変化しますが、私たち介護・福祉に携わる者の根底にある「こころ」は変わらず、先代から脈々と受け継がれた「想い」がそこにあるように感じます。

本大会を通して、会場スタッフの皆様、エージェント様、土産品協会様、数多くの皆様のお力添えをいただき、驚くほどの静岡の底力を発揮できたと思います。当日お越しいただいた大勢の皆様から、「とても良い会だった」といったお褒めの言葉を沢山いただき、静岡にお迎えした皆様へのおもてなしのところが伝わった喜びに感動した二日間でした。準備から当日を迎えるまで、紆余曲折色々ありましたが、終わりよければ全てよし！

次にまた静岡県が当番県となるのは果たして何年後なのでしょう。時代の変化に対応しつつも、根底にあるところが、これからも広く受け継がれていけるよう、今を担う私たちに課せられた大きな課題かと思えます。

最後に、全体会班の皆様、皆様のご協力なくしてこの全体会の成功はあり得ませんでした。本当にありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。

分科会報告



関東ブロック老人福祉施設研究総会
実行委員会副委員長 **高杉 威一郎**
(社会福祉法人 峰栄会 さぎの宮寮施設長)

大会2日目、浜松市中心部にあるアクトシティ浜松・ホテルクラウンパレス浜松の2施設6会場で分科会が開催されました。15都県市の代表施設42題、登壇者80名による心のこもった福祉の実践発表が行われました。発表者の皆様は、施設での研究に始まり、事前提出の発表原稿、当日の発表資料の作成、日々のチームケアで円滑に行かず苦慮したこともあり、15分の発表時間では語りつくせないドラマがあったと推察いたします。本当にお疲れ様でした。

また、分科会終了後に12都県から選出された評価者12名により、10月に開催される全国老人福祉施設研究会議への推薦選考会が執り行われ、6施設を推薦していただきました。

本総会のテーマである「未来へつなぐ福祉の心～育てようにつぼんの介護力～」を遂行するため、分科会では専属スタッフ53名で編成をして静岡県の「おもてなし」の心で42題の進行をさせていただきました。発表者の皆様、聴講者の皆様に「やっぱり福祉っていいな。」と感じていただき、次回開催県である神奈川県に「につぼんの介護力」をつなぐことができたなら幸いです。

末筆となりますが、ご参加いただきました皆様、発表施設の皆様、運営に携わって頂きました静岡県老人福祉施設協議会委員及び施設職員の皆様、そして静岡県老人福祉施設協議会事務局の皆様の支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

第1分科会 テーマ「中重度ケアの実践」

社会福祉法人 掛川社会福祉事業会

かけがわ苑施設長 溝口 宜弘

様々な専門職種からの研究発表が行われ、重度化によって増大する食事摂取に係る嚥下リスク、認知症高齢者への対応や終末ケアに対する多職種協働、専門的アプローチ方法等、いずれも、課題提議に基づき仮説・実践・検証・考察を柱建とした研究構成を満たした発表内容であり、大会の中では最も広い会場でしたが、常に満席の状態、聴講者の関心は大変高いように見受けられました。評価者からの講評では、「普段業務の中で、専門職としての課題意識、研究心を持って実践取り組みを展開している」ことへの評価を聴講者へのメッセージに替えて届けて下さいました。



分科会終了後の推薦選考会



第1分科会 司会担当

第2分科会 テーマ「暮らしを楽しむ工夫」

社会福祉法人 三保会

しあわせの家施設長 土屋 雅 利

会場では、①芙蓉荘（山梨県）「動き出しは当事者から」入居者の動き出しに着目して介護事業を推進した事例、②福住（新潟県）「特別養護老人ホームにおけるチームアプローチ」自立支援介護に6年間取り組んだ結果、多職種連携が深まり、入居者の表情が明るくなった事例、③えびな南高齢者施設（神奈川県）「利用者自身による理美容店の選択」おしゃれに着目し、入居者の生活意欲を引き出す取り組み事例、④厚生苑清流の郷（静岡県）「口腔機能の支援によるADLの向上」経口維持の取り組みが、ADLの向上につながった事例、⑤シャローム若葉（千葉県）「生活援助から身体介護へ・適切なケアマネジメントを目指して」訪問介護の調理支援を身体介護として扱えるよう、多職種連携をおこなった事例、⑥草加園（埼玉県）「一度失った心のケアについて」退院後のQOLの低下を回復させるよう取り組んだ事例、⑦而今桜（栃木県）「苦楽」入居者間のトラブルを契機に、職員のストレス軽減に取り組んだ事例の発表がありました。全体を通して、様々な課題に対して、職場の仲間が一体となって解決したことが共通でした。発表からの知見を活かしていきたいと感じました。



第2分科会 発表風景

第3分科会 テーマ「多職種協働・連携の実践」

三島市立養護老人ホーム

佐野楽寿寮施設長 飯塚 茂 穂

介護職員・理学療法士・看護師等様々な専門職の方々の研究発表が行われました。

認知症高齢者に対するケア、口腔嚥下体操等による経口摂取への取り組み、看取りケアなど介護の現場で、多職種協働・連携を基に研究し実践されており、課題に基づいた発表内容でありました。

各施設において、一人一人と向き合った介護をされており良い介護ができていると感じました。

各分科会の中でも皆さんの関心が高い分科会であったようで、常に満席の状態であり立って聞いている方も見受けられました。

評価者も甲乙つけがたい発表で大変だったと思います。

良い分科会をありがとうございます。



第3分科会 発表風景

第4分科会 テーマ「魅力ある職場づくり」

社会福祉法人 斉慎会

西貝の郷施設長 小川 正 信

①さくら苑（横浜市）持ち上げない介護定着と継続への取り組み②清明苑（栃木県）事故からのリスタート。ご利用者のため、職員のため...
③大宮諏訪の苑（さいたま市）職員満足度を高める取り組み④昭寿荘（山梨県）TRY TO THE

IMPROVEMENT OF CARE⑤第2 開寿園、菜の花（静岡県）藤枝PK（プロフュショナルカイゴ）選手権大会⑥かりん（神奈川県）キャリア別教育体制の構築⑦にしかりの里（新潟県）データに基づいた効果的な自立支援をめざしての7題。会場は、朝から立ち見が出るほど多くの参加者が詰めかけ、メモをとったり、質問するなどして熱心に参加し、最後まで盛況でした。



第4分科会 会場の様子

第5分科会 テーマ「在宅サービスの取組み」

社会福祉法人 珀寿会

羽島の森施設長 根城隼太

関東ブロックは広範囲な都県に跨るため、第五分科会に於いては各地域の実情が浮き彫りとなる研究大会となりました。長野の大町市のような過疎と高齢化の地域、川崎市のような日雇労働者や外国人などが大量に流入し過密と貧困を問題に抱える地域。状況は対照的で、それぞれの地域が求めるニーズは全く異なりました。

しかしこの地域間の「差異」は可能性にもなり得るのではないかと思います。地域間連携が図られれば解決できる問題もあるのではないかと。私どもには繋がる事で発揮できる力があるように思われます。本会は連携の大切さを再認識させられる大変有意義なものであったと思います。



第5分科会 受付

第6分科会 テーマ「社会福祉法人における取組み」

社会福祉法人 恒仁会

あかいしの郷施設長 澤本英季

第6分科会の発表は、地域で暮らす人々が抱える福祉ニーズや課題に真剣に向き合い、自分達が何をすべきか考え、実践し『社会福祉法人として地域とどう向き合っていくか』を私達に教えてくれた取り組みの数々でした。発表を聞いた県内外の皆さんは、多くの刺激を受け、地域課題に取り組むアイデアが生まれた貴重な機会になったと思います。

関東ブロック老人福祉施設研究総会（静岡大会）は、静岡県らしさが表現され、活気に満ちたすばらしい大会でした。実行委員会をはじめ関係者の皆さん本当にお疲れさまでした。



第6分科会 発表風景

福祉機器等展示会報告



社会福祉法人 行和会
葵の里施設長 木 全 重 樹

今回の福祉機器等展示会では静岡県と共同開催により、静岡県内外から29社もの企業様に出展して頂きました。出展された製品も、ICTや見守り機器を始め、ベッドや入浴設備、移動・移乗介助の補助器具、排せつ用品、飲食関連や感染症対策等と多岐に渡り展示されました。

本大会開催中の26日(木)、27日(金)両日共に多くの皆様にご来場頂き、そのなかでも一般の方も多く来場されていました。自分の家族の介護の為に介護用品を実際に見たり体験したりして、今後の在宅での家族介護に少しでも使いやすい製品がないかを見に来られたとの事で、各出展ブースで色々な質問をされており、一般の方の介護用品に対する知識や在宅での家族介護の意識の高まりを実感しました。

本大会の参加者(来場者)の方々は実際に直接利用者様と関わっているスタッフの方も多く、展示会場でも各ブースで製品に関する内容など詳細に質問をしている姿も多く見られました。

今年度からスタートした働き方改革が大きな潮流となっていることや、今後の更なる介護人材の不足を視野に入れて、施設設備のICT化や見守りセンサーなどを活用してのスタッフの業務負担軽減など人手不足を補う製品が注目を集めていました。働き方改革を進めていく製品として、ICTや見守りセンサーなどでは利用者様の就寝状態などを室内に設置したセンサーやベッドに付属されたセンサーが人の動きを感知して、ス

タッフに通知し、スタッフルームのパソコンモニターでも、利用者様の状況を確認できるため、夜間の安否確認など巡視の効率化ができるという製品もありました。2018年度の介護報酬改定により、見守りセンサーを導入した施設では夜間の人員配置が緩和されるなど、今後このようなスタッフの負担軽減のための見守りセンサーやICT導入が更に進んでいき、スタッフが安全で安心して働ける職場環境作りが施設運営のうえで大きな役割を果たしていくと改めて感じました。

また日々介護現場で業務しているスタッフの方では、実物の製品を手にとることで自施設での需要の有無や必要性などを確認し、各ブースで熱心に話をしている場面もありました。出展企業様の中には直接介護現場で働くスタッフさんの「生」の声を聞くことができ、今後に向けより良い製品開発や新しい提案に繋がる貴重なご意見を頂きました。との声もありました。

今回の展示会を通じ多様に変化する介護現場での課題を働く側、企業側が共有することで、更なる改善・提案の発信に繋がり、今後の老人福祉の現場に寄与できるのではないかと感じる展示会となりました。

福祉機器等展示会では多くの来場者の方々にお立ち寄り頂いたこと、またご多忙の折にもかかわらず多くの企業様に出展して頂きまして、誠にありがとうございました。皆様のおかげをもちまして、盛況のうちに福祉機器等展示会を執り行うことができましたことを心よりお礼申し上げます。



新人職員紹介

どうぞよろしくお願いします

あかなすの里

(三島市)

- ① 市川明美 (介護職)
- ② 今年成人式を迎えたこと
- ③ AAA
- ④ 好きなところに旅行に行く
- ⑤ 笑顔が絶えない楽しい職場
- ⑥ 施設の雰囲気がとても良かったから



萠山・ぶなの森

(伊豆の国市)

- ① 栗林彩音 (介護職員)
- ② 自分が頑張っているとふと感じたこと。
- ③ 小山慶一郎 (NEWS)
- ④ 仕事そっちのけでNEWSのコンサートに行きまくる
- ⑤ 楽しい施設にしたい
- ⑥ 家から近かったから。



あすなろの家

(静岡市)

- ① 杉山 光 (ケアワーカー)
- ② 自分の気に入った服やアクセサリが見つかり買えた事。
- ③ 本田 翼
- ④ 旅行・車購入・美味しいものをたくさん食べる
- ⑤ ご利用者が自由で快適に過ごせる施設にしたいです。
- ⑥ 自宅から近い
友達や知り合いが働いていたから



巴の園

(静岡市)

- ① 青木なつき (介護職)
- ② 退所前日の利用者に抱き着かれお礼の言葉を述べられたこと。
- ③ 宮沢氷魚
- ④ 大好きな祖父母、両親と分け合いたい。
- ⑤ 利用者、家族に安心してもらえる施設。
- ⑥ 実習時に利用者さんと家族や友人のようにとても近い距離間だったため。



白梅下石田ホーム

(浜松市)

- ① 鈴木結香 (事務職)
- ② 旅行に行ったこと
- ③ お笑いタレント
- ④ 世界一周旅行
- ⑤ 利用者様と職員が笑顔で過ごせる職場
- ⑥ 雰囲気が良かったから



ディアコニア

(袋井市)

- ① 浅井健矢 (介護職員)
- ② 泣ける映画に会えたこと。寝ずに済む作品は珍しかった。
- ③ 日高のり子 (ナレーションが素敵)
- ④ 投資で増やす
- ⑤ 今は仕事を覚えるので余裕がなく、具体的に答えられない。
- ⑥ 法人内に牧場があり、動物が近くにいるから。



各施設の新人職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手
④ もし宝くじで1億円当たったら何に使いますか ⑤ 今後どんな施設(職場)にしていきたいですか
⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか

静岡県老施協中部支部の活動紹介

新卒職員と介護の未来ナビゲーターインタビュー

特別養護老人ホーム 白扇閣

今号の支部紹介では静岡市清水区にあります「社会福祉法人 清承会 特別養護老人ホーム 白扇閣」にて「新卒職員と先輩職員のインタビュー」を行いました。

白扇閣は昭和54年に設立。現定員190名

平成30年に静岡県優良介護事業所知事褒章受章、介護福祉士実務者養成施設を開講。

現在、指定管理者の養護老人ホーム清水松風荘と合せ職員約200名、全職員直接雇用を続け、静岡県主催「介護のおしごと体験バスツアー」「介護職の魅力発見ツアー」見学施設にもなります。

介護職員：勝山美恵子

新卒介護職員：橋本優仁、平岡正光、清水美来、中村優美、加藤明奈、細川紋香、近藤舞、米山優翔

インタビューワー：坂井田敬子

・福祉科、介護を選んだ理由を教えてください。

中村：小学4年生の時ボランティアで友達のお母さんの勤めている介護施設に行き、利用者様と楽しく会話しているところを見て、距離が近く良いな。カッコいいなと。それだけの理由です（笑）「利用者様にお尻を向けてはいけない」などのルールもあり、そういう所もしっかり決まっているんだな、良いなと。

近藤：小学6年生の時、社会科見学で介護施設に行きました。そこで自分もお手伝いしたいと感じ、その時から介護の仕事と思いました。

橋本：高齢者の仕事に興味があったのが一つと、家族の介護や介護の仕事をしている親戚がいて、自然とやってみたいと思い福祉科を専攻し介護の仕事を目指しました。

加藤：福祉科に入りましたが、入った瞬間に「あ…私には介護無理だな」と思いました。でも入ったのだから学ぶだけ学ぼうと。長期間の実習で一人の利用者様の担当になり仲良くなり、介護が凄く楽しくなりました。実習最終日、利用者様が「ありがとう」と泣いて下さいました。その時、「あっ…介護ってとても良い仕事だな」と感じ、それがきっかけで介護をやってみよう決めました。99大変でも1笑ってくれる瞬間が介護って良いなって！

・嬉しくガッツポーズをしたり、信頼関係を気付けたきっかけ等は？

平岡：最初は信頼関係が築けなかったのですが、利用者様が興奮したとき、3時間話を聴きました。それから信頼関係が築けるようになりました。笑顔をもたらすると「よしっ！」ってなります。今も30分位お話を聴くことはありますが聴く時間を他の利用者様に支障が出ない時間にしています。

勝山：利用者様の「ありがとう」の一言は凄く嬉しかったですね。やっぱり笑顔を頂くと私自身も嬉しくなります。日々笑顔を頂けるように仕事に取り組んでおります。

細川：利用者様に名前を覚えてもらった時は嬉しかったですね。



・介護の仕事のやりがいとは？

清水：利用者様に名前を憶えていただいたり、挨拶をいただいたり、何かお手伝いしたときの「ありがとう」の声がとても嬉しいです。行事担当で一緒に準備をしたときも、笑顔が素敵で介護って良いなと思いました。

中村：まだ社会のルールがわからないので、利用者様のご家族が見えたときに挨拶をしたり、椅子をお出しする。介護をしながら社会のマナーを学べるところにやりがいを感じます。

近藤：敬語ではない話し方をしてしまうと、先輩がすぐに教えてくれます。そのことを学びながら白扇閣で楽しく仕事をしています。



・困った時どのようにして乗り越えましたか？

細川：利用者様から笑顔で声を掛けていただいたり、先輩が介護に限らず分からないことを教えてくれ支えていただけたところです。勉強会等の場で自信が持てたりもします。

橋本：失敗し頭が真っ白になったとき、先輩が「まず落ち着こう！起きてしまったこと、今の気持ちわかるよ！」と寄り添ってくれる、間違っただけを指摘されるのではなく、自分の気持ちと同じになり分かってくれる。凄く支えられます。寄り添うってことは大切だなと教えてもらいました。

米山：先輩達が凄く良い人ばかり。気分が沈んでいるときに「今日の〇〇が良かったよ！凄かったよ！」と必ず声を掛けてくれるので、元気が出ますし良い職場だな、明日も頑張ろうと感じます。後輩が出来たら自分もしてあげたいと思います。

平岡：本当に先輩たちが優しいです。寄り添ってくれる先輩ばかり。良い先輩ばかりで恵まれていると感じます。

勝山：職員同士が凄く仲が良いです。周りの方に凄く恵まれていると思います。働きやすいと実感しています。

・介護の未来ナビゲーターとは？

勝山：介護の仕事のやりがい、喜びを情報発信する為、静岡県知事より委嘱されています。高齢化社会でお年寄りの方が増えていく中、介護の需要も多くなっていきます。若い世代の人達に少しでも介護の仕事に興味を持ち、介護のお仕事に就いてもらうためのお仕事になります。施設長、介護長に勧められたのがきっかけで私自身が何か力になれば良いなと自身のスキルアップも含め介護の未来ナビゲーターをやらせていただいております。

・5年後の自分は？

細川：利用者様や面会に来られた方にちゃんとした対応がとれ先輩のように臨機応変に対応できていればと

思います。

勝山：私自身のスキルアップや、より良い介護の提供。プライベートもより充実していれば良いなと思っています。

橋本：今より介護技術を向上させたいです。もう一つは初心を忘れないようにしたいです。

清水：利用者様、ご家族に対し同じ立場、気持ちになって行動できる介護職になれば良いなと思います。

加藤：常に笑顔でいる介護職員になりたいです。私たちが笑わないと利用者様が笑顔になれないと思います。まずは私達が笑って利用者様が笑顔になれる介護職員になりたいです。

中村：今は余裕がない自分があるので5年後は利用者様の対応が丁寧にできればと思います。余裕がない時先輩に相談すると、先輩たちが私のやりたいことを優先して付き合ってくれる。寄り添ってくれている。自分も余裕ができたなら先輩達のように寄り添ってあげたいです。

近藤：今は教えてもらったことを行うことが精一杯になっています。5年後は他のことも余裕をもってできるようにしていきたいです。

米山：ステップアップし、笑顔でこの仕事ができれば良いなと思います。

平岡：スキルアップし利用者様にもっと寄り添いたいです。

・皆さんの意見を聞いて

細川：違った目標、考え方があって良いなと思いました。

中村：皆で話すことができ、自分と状況はそんなに変わらないと感じ安心しました。(笑)

加藤：自分だけが悩んでいるわけではない、皆思うことは一緒だなと感じました(笑)。

勝山：新人の意見を聞いて良い刺激になりました(笑)

坂井田：今日は良いお話を聴かせていただきありがとうございました。



SHIZUOKAミーティング



21世紀委員会委員 大塚 渉 爾
(社会福祉法人 美芳会 するが荘施設長)

7月11日に今年で3回目となるSHIZUOKAミーティングを開催いたしました。SHIZUOKAミーティングとは、全国老施協の21世紀委員会が主催のカントリーミーティングをもとに、地方版として平成29年から実施しております。今回は会員施設の40名の参加となり、設定したバズワードの中からテーマに沿って6名程度のグループワークを行い、意見や課題を出し合い、グループごとに今後取り組むべきアクションプランを発表しました。特養、養護、デイ、グループホームなど多種多様な形態と職種も介護職員から相談員、事務職など多職種の参加が見られました。普段のコミュニケーションの相手とは違った方たちと共通のテーマについて議論することで、新しい課題の気付きや他の施設の参考になる取組、さらには自施設での取組が強みであることなど発見があったようです。アンケートの感想では「普段と違った立場や職種の人たちと前向きな議論ができたのがとてもよかった」や「現場課題が同じようなことが聞かれ、どこも悩んでいることが分かったことと、うまく取り組んでいる事例がきけるとても参考になった」といった声がきかれました。このような意見交換から自施設に有効な具体的なアクションプラン



ンを議論できることがこのカントリーミーティングの魅力だと思います。

また、このカントリーミーティングは関東ブロックでも行われており、毎年輪番で各県で開催がされております。このSHIZUOKAミーティングも引き続き開催継続していきたいと思いますので、今後の介護の業界の課題や現場の意見を積極的に発信していくための機会として多くの方にご参加頂ければと思います。

グループワークシート

チーム番号 _____ 名前 _____

インプット／input

STEP① 自分の考えていることや想っていることを発言しみんなで見ましょう。

【肯定的な意見】 _____ 【期待的な意見】 _____ 【課題的な意見】 _____

STEP② グループで共通の課題を話し合います！

【共通の課題】 _____ 【共通の課題を解決するための課題分析】 _____

STEP③ 課題について自分たちが目指す方向性や必要なスキルを出し合います。

STEP④ 明日から自分たちが出来る未来型「KAIGO」の実現についてどのように取り組むか発表しましょう。

私たちのグループは【 】について _____

_____と考え、つぎのように取り組んでいます。

【バズワード】

- | | |
|-------------|------------|
| ① 制度・事業戦略 | ② 自立支援介護 |
| ③ 人材戦略・人づくり | ④ 未来型KAIGO |
| ⑤ 生産性向上 | ⑥ 地域共生 |

令和元年度老施協活動報告

【老施協】

★元年8月28日 第2回理事会

【協議事項】

旅費規程の改廃、理事の補欠の選任、委員会委員の補欠の選任、令和元年度会長表彰受賞者の決定

【報告事項】

県健康福祉部福祉長寿局との懇談会、防災訓練の実施案等

【企画経営委員会】

★元年7月29日 第3回委員会

全体打合せ（介護人材確保施設経営実態調査、県との懇談会・要望、ネットワーク活動の検討）、チーム別ミーティング

★元年10月10日 第4回委員会

全体打合せ（県との懇談会振り返り）、来年度に向けて（調査研究・要望・ネットワーク活動）、チーム別打合せ

【広報委員会】

★元年7月19日 第2回委員会

ホームページの充実の検討、しず老施協第56号の企画について

【研修委員会】

★元年7月24日 アクトシティ浜松研修交流センター

10月10日 三島商工会議所

人材育成研修会 初級編 承認スキルの習得

*講師 ふくしえん社労士事務所代表 後藤功太氏

★元年8月6日 第3回委員会

委員会委員の補欠の選任、人材育成研修、県外研修について

【21世紀委員会】

★元年8月1日 第3回委員会

委員会委員の補欠の選任、令和元年度活動内容（各グループ事業）について

★元年10月29日 第4回委員会

委員会委員の補欠の選任、令和元年度活動内容（学生セミナー等）、カントリーミーティング（千葉大会）について

【関東ブロック老人福祉施設研究総会実行委員会】

★元年7月18日 第9回委員会

元年8月7日 第10回委員会

全体協議・報告、チーム別協議、今後のスケジュールについて

★元年9月6日 合同委員会

全体説明、チーム別進行確認、全体協議

【養護委員会】

★元年8月6日 第2回養護委員会総会

調査結果資料評価、県との懇談会及び県への要望・意見、市町への要望活動等について

【特養委員会】

★元年7月2日 第2回委員会

入所・待機者状況調査、啓発チラシ等の項目アンケート、県との懇談会及び県への要望・意見について

★元年10月8日 第3回委員会

入所・待機者状況調査報告書、啓発チラシ等の項目アンケートについて

【地域ケア委員会】

★元年9月4日 第2回委員会

県との懇談会及び県への要望・意見、地域包括支援センター等実態調査を踏まえた働き掛け、県・市とのシンポジウム等について

“未来へつなぐふじのくにの介護力”

～静岡県（福祉長寿局）との懇談会と副知事・健康福祉部長への要望活動～

静岡県との懇談会

令和元年8月28日(水)に静岡県総合社会福祉会館において、静岡県（福祉長寿局）との懇談会を開催。静岡県の担当部局と老施協との忌憚のない意見交換が行われました。

静岡県から山内福祉長寿局長ほか担当課長等6名、老施協から石川会長をはじめとする副会長及び委員長等の18名、総勢24名が参加しました。



老施協の各委員会から提出された意見要望を企画経営委員会がとりまとめ、静岡県の来年度予算等への要望として提出しました。

正副会長の要望活動

令和元年9月3日、正副会長は要望書を携えて、吉林副知事と池田健康福祉部長を訪問し、要望書を提出するとともに意見交換を行いました。



編集後記

9月の関ブロは、私の施設から当初4名での申込みでしたが、締切り後に2名の追加。追加者は遠くのホテル（徒歩15分）になってしまう為、泣く泣く、若手の4人は会場近くのホテル、私と介護長のおじさんコンビは遠くのホテルに変更して頂きました。やはり、自分の子供と同世代の若手職員たちには楽をさせてやりたい、と親心になってしまいます。

今回の誌面で特集していただいたように、私の施設では今年8名、昨年は3名の新卒採用がありました。退職者も少ない中、出産ラッシュで8名の産休育休があることが幸いし、良い学生さんは全員採用することが出来ました。

昨年から、中途採用は止めていますが、自分の施設を希望してエントリーされる新卒の学生さんには、どうしても、親の気持ちになってしまい、全員採用したくなってしまう。

関ブロの研究発表では、若手の職員が多かったように感じます。

参加した若手職員と夕食を終え別れ、介護長とホテルへ戻る長い帰り道、「これからは、自分たちは一歩引いて、若手職員だけで参加してもらおう…」と、若手の台頭にうれしくもあり、さみしくもある関ブロでした。

（久保田）